

Hitachi Koki

POWER TOOLS for PROFESSIONAL

取扱説明書

用途

- 椎茸栽培用ほだ木作り、果樹の枝落とし
- 立木の伐採、薪切り、古材切り
- 柱の荒切り、捨て切り
- ログハウスなどの木工



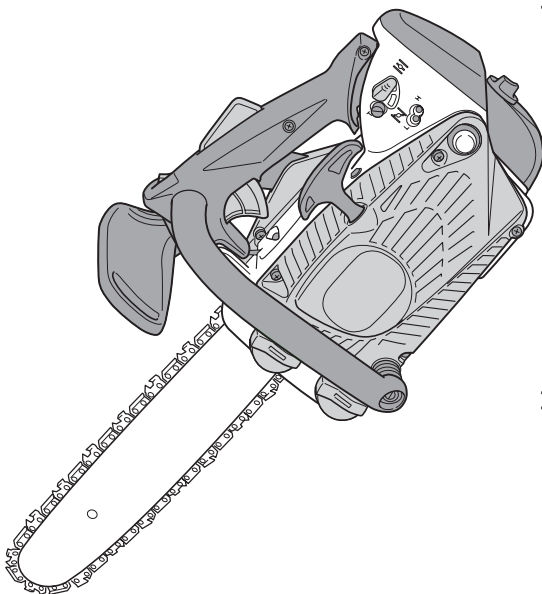
陸内協排出ガス自主規制
適合エンジン搭載

日立 エンジン チェンソー CS 33EDTP CS 33EDTP(S)

このたびは日立エンジンチェンソーをお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



混合燃料

燃料混合比

無鉛ガソリン 2サイクル専用オイル
25 : 1

警告表示について	1
エンジン工具の安全上のご注意	2
本製品の使用上のご注意	6
各部の名称	8
標準付属品	9
仕様	10

はじめに

ご使用前の準備 11

作業場所の整備 / 燃料とチェンオイルの準備
スパイクの取付け / ソーチェンの交換
ソーチェンの張り具合調整

エンジンの始動 / 停止 15

始動方法 / 停止方法

キックバックについて 17

チェンブレイキについて 18

作業する 19

切り方の基本 / 立ち木の伐採作業
枝落としと玉切り

使い方

保守・点検・整備 22

リコイルスターター / サイドケースの掃除
チェンオイル吐出口の掃除
ガイドバーの掃除 / マフラー / 気化器
燃料フィルター / オイルフィルター
エアクリーナーの清掃
点火プラグ

ソーチェンの目立て 27

目立て / デプスゲージの調整

保管方法 28

故障診断 29

ご修理のときは 裏表紙

その他

HITACHI

警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、ご使用時の危険回避などを目的に本機及び取扱説明書に下記の表示をしております。

これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。



取扱説明書を良く読んで内容を十分理解し、誤った使用で不慮の事故を起こさないように注意してください。



取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意などに従って安全に使用してください。



火気厳禁

引火しやすい燃料を使用するため、本機に火気を絶対に近づけないでください。



保護帽（ヘルメット）、保護メガネ、手袋、安全靴など保護具を着用してください。



本機に火気を近づけないでください。



排気ガスは人体に有害ですので直接吸わないでください。



本機の近くでたばこを吸わないでください。



キックバックに注意してください。ガイドバー先端での作業はしないでください。



混合燃料を入れてください。



片手で使用しないでください。必ず両手でハンドルを確実に握って使用してください。

⚠ 危険、⚠ 警告、⚠ 注意、📌 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ 危険」、「⚠ 警告」、「⚠ 注意」、「📌 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 危険 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を即時に負う事が想定される内容のご注意。

⚠ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

📌 注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

エンジン工具の安全上のご注意

- ・火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- ・お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 危険



火気厳禁



火気に注意してください。

- ・燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- ・たばこを吸ったり、火気を近づけないでください。
- ・燃料がこぼれたら、よくふき取ってください。
- ・運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
- ・燃料、可燃性ガス、その他の可燃物のある場所では使用しないでください。
- ・乾燥地帯で使用する場合は、消火用具を準備してください。
爆発や火災、やけどの原因になります。

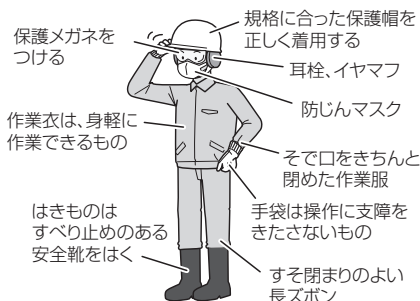
⚠ 警告

① 指定された用途以外に使用しないでください。

- ・けがの原因になります。

② 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。

- ・作業時は保護メガネを着用してください。
 - ・そで口をきちんと閉めた作業服、すそ閉まりのよい長ズボンを着用してください。
 - ・耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
 - ・粉じんの多い作業では、防じんマスクを着用してください。
- 保護具をつけないで作業すると、飛散物が身体に当たるなどけがの原因になります。



③ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- ・取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- ・常識を働かせてください。
- ・疲れているとき、身体の調子が悪いときは、使用しないでください。
- ・視覚や敏しょう性、判断力に影響するような酒類、薬物を飲んでいる人は使用しないでください。

⚠ 警告

- ④ 作業はゆとりを持って行ってください。また、身体を冷やさないようにしてください。
- ⑤ 子供を近づけないでください。
 - ・作業者以外、エンジン工具に触れさせないでください。
 - ・作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑥ 子供や取扱説明書をよく読んでいない人、または取扱いに不慣れな人にはエンジン工具を使用させたり、貸さないでください。
 - ・初めて使用する方は、販売店や熟練者に操作方法、注意事項をよく教わって十分習得し、取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- ⑦ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。
- ⑧ 夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨中や雨上がりのぬれた場所では使用しないでください。
 - ・足もとが不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。
- ⑨ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント、先端工具（刃具など）以外のものは、事故やけがの原因になるので、使用しないでください。
- ⑩ 始動前に先端工具（刃具など）を点検してください。
 - ・先端工具（刃具など）にひび割れ、傷、曲がりがある物は使用しないでください。
 - ・先端工具（刃具など）が確実に取付けられているか確認してください。先端工具（刃具など）が割れたり、はずれたりすると事故の原因になります。
- ⑪ 始動前に各部を点検してください。
 - ・機体、飛散防護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
 - ・可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、グリス、燃料漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響するすべての箇所に異常がないか確認してください。異常がある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑫ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
 - ・エンジンを始動する前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑬ エンジンを始動する場合は注意してください。
 - ・機体を平らな場所においてください。
 - ・15 m以内に人や動物を近づけないでください。
 - ・スロットルレバーがアイドルの位置にあることを確認してください。
 - ・先端工具（刃具など）が地面や被削材などに触れていないことを確認してください。
 - ・周囲にかれ草、紙くず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。
 - ・燃料を補給した場所から3 m以上離れた場所で行ってください。不用意な始動は、けがや火災の原因になります。

⚠ 警告

- ⑭ ストップスイッチを停止の位置にしたときエンジンが確実に止まることを確認してください。また機体から離れるときは、ストップスイッチを停止の位置にしてください。
- ⑮ スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合があるので注意してください。
- ⑯ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足もとをしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
 - 足もとの不安定な場所では使用しないでください。
転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- ⑰ 電線、ガス管などが設置してある場所では安全に十分注意してください。
- ⑱ 回転速度をむやみに上げないでください。
- 回転を上げる場合は急に上げずに、徐々に回転を上げてください。
 - 作業の負荷に応じてスロットルレバーを調整しながら使ってください。
飛散物が飛び散るなど、思わぬ事故の原因になります。
- ⑲ 次の場合はエンジンを停止し、先端工具（刃具など）の動きが止まるのを確認してください。
- 使用しない、または修理する場合。
 - 作業場所を移動する場合。
 - 先端工具（刃具など）、アタッチメント、その他機体の点検、調整、交換などを行う場合。
 - 機体に巻きついたごみや草を取除く場合。
 - 作業場所の障害物を取除いたり、作業で発生したごみ、草、切り粉などを運ぶ場合。
 - 機体を身体からはなす場合。
 - その他、危険を感じた場合、危険が予想される場合。
エンジンや先端工具（刃具など）が動いたままでは、思わぬ事故が起こります。
- ⑳ 他の人を 15 m 以内に近づけないでください。
また、二人以上で作業する場合も、15 m 以上離れてください。
- 飛散物が当たるなど、思わぬ事故の原因になります。
 - 傾斜地などの足場が悪い場所での作業では、他の作業者に危険がないことを確認してから作業してください。
 - 呼び笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。
- ㉑ 排気ガスに注意してください。
- 屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。
 - 建物、その他の設備に排気ガスが入らないように注意してください。
ガス中毒や窒息の原因になります。
- ㉒ 作業中は点火プラグキャップ部、高圧コードに触れないでください。
- 電気ショックを受ける可能性があります。
- ㉓ 作業中はもとより、エンジン停止後もしくはエンジ本体、マフラー、特に排気口などに触れないでください。
- けがややけどの原因になります。



⚠ 警告

- ②④ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止めて、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
 - そのまま使用すると、けがなど事故の原因になります。
- ②⑤ 誤って機体を落としたり、ぶつけたりしたときは、破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
 - 破損や亀裂、変形があるときがや火災の原因になります。
- ②⑥ 機体を車で運搬する場合は、燃料タンクから燃料を完全に抜き取ってください。また、機体が動かないように固定してください。
 - 火災や事故の原因になります。

⚠ 注意

- ① 本機は2サイクルエンジンですので、混合燃料 25 : 1 (無鉛ガソリン : 2サイクル専用オイル) を使用してください。
 - ガソリンだけでエンジンをかけたり、混合比を間違えるとエンジンが故障する原因になります。
- ② 使用後に機体を運搬したり、保管する場合は、先端工具 (刃具など) をはずすか、カバーをかぶせてください。
 - 先端工具 (刃具など) が身体に触れて、けがの原因になります。
- ③ 機体は注意深く手入れしてください。
 - 安全に効率よく作業していただくために、先端工具 (刃具など) は常に手入れし、刃具類はよく切れる状態にしてください。
 - 付属品やアタッチメントの交換、機体の手入れ、注油などは取扱説明書に従ってください。
- ④ 修理は専門店で依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ストップスイッチは停止の位置にして保管してください。
 - 燃料を抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。
- ⑥ 燃料は安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。
- ⑦ 警告ラベルが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告ラベルと取換えてください。
 - 警告ラベルはお買い求めの販売店にお申しつけください。
- ⑧ 作業に当たって、その地域の規則や取り決めがある場合はそれに従ってください。

本製品の使用上のご注意

先にエンジン工具として共通の注意事項を述べましたが、エンジンチェンソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 危険

高所での枝打ち、枝払い作業について

木の上及び高所（2メートルを越える箇所）での作業は、足場が不安定になり非常に危険です。以下の内容を守り、安全に作業してください。

また、作業前に販売店または専門の技術指導を受け、十分に訓練した上で作業してください。

- ① 高所作業用機器（高所作業車、木登り機など）を使用し、安定した足場を確保すると同時に安全帯（芯入り）を必ず着用し身体をしっかり固定させてください。
- ② 片手持ち作業、腕を伸ばしてのチェンソー操作は行わないでください。
作業範囲は作業者の肩から腰の高さとし、それ以外では作業しないでください。
- ③ エンジンの始動は地上で行い、木の上および高所では始動しないでください。

⚠ 警告

- ① 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候のとき、また落石、雪崩の恐れのある場所では使用しないでください。
 - 悪天候により判断が鈍ったり、エンジン音や振動により災害を引き起こす原因になります。
- ② チェンソーに装備されている各種の安全装置（ブレーキレバー、ロックレバー、チェンキャッチャーなど）は絶対に取りはずさないでください。
また、改造したり、固定しないでください。
 - けがの原因になります。
- ③ 作業は原則として一人で行い、複数で作業するときは十分な間隔をとってください。
特に、立ち木の伐採や斜面での作業では、木の倒れ、転がり、すべりを予測し、他の作業者に危険がないことを確認してください。
 - 倒れる木に当たるなどけがの原因になります。
- ④ 片手持ち作業、無理な姿勢（腕を伸ばした状態、肩より高い位置の作業）、不安定な場所（はしごの上、木の上）での作業は行わないでください。
 - けがの原因になります。
- ⑤ キックバック防止のため、ガイドバー先端部（特にガイドバーの上部1/4の部分）での作業は行わないでください。
 - 突っ込みきり作業は、キックバック発生によるけがの原因になります。

⚠ 警告

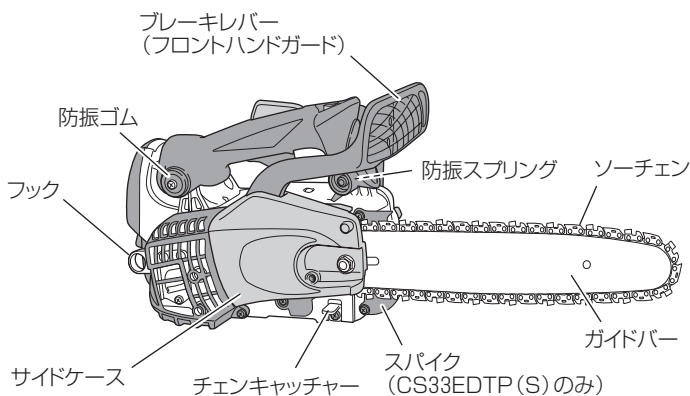
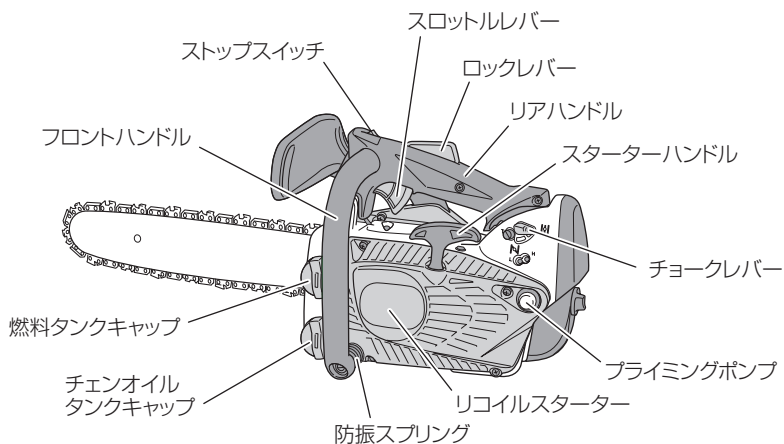
- ⑥ 運転中はフロントハンドルは左手、リアハンドルは右手で確実に保持し、両足を開き安定した姿勢で作業してください。
また、足場の悪い場所で作業するときは、周囲を整備し足場を確保してください。
- 安定しない姿勢での作業は、けがの原因になります。
- ⑦ 立ち木を伐採する前に、次のことを実施してください。
- 伐採する前に安全な避難場所を確保する。
 - 邪魔になる障害物（枝、灌木など）をあらかじめ除去する。
 - 伐採する木の状態（幹の曲がり、枝の張りなど）、周囲の状況（隣接する木の状態、障害物の有無、地形、風向きなど）を総合的に判断して立ち木を倒す方向を決めて、伐採の手順を計画する。
 - 不用意な伐採作業は、けがの原因になります。
- ⑧ 立ち木の伐採中は、次のことを実施してください。
- 作業中は常に木の倒れる方向に注意する。
 - 傾斜地では、木が転がらないことを確認の上、常に山側に立って作業する。
 - 木が倒れ始めたらエンジンを停止し周囲に警戒の合図を行い、直ちに安全な場所に避難する。
 - 作業中にソーチェン、ガイドバーが木に挟まれたときはエンジンを停止しクサビを使用する。
- ⑨ 曲げられている枝、掛かり木、裂けている木などは切断終了時の跳ね返りに注意してください。
- できる限り十分な訓練と経験を積んだ専門者に依頼してください。
- ⑩ 作業前にロックレバーを押しながらでない、スロットルレバーが引けないことを確認してください。
- 故障しているときは使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⚠ 注意

1日の作業時間は2時間以内にしてください。また、作業の組み合わせを工夫して連続作業時間を10分以内にしてください。

- 疲労は事故の最大の原因です。

各部の名称



標準付属品

品 名	個 数
①両口ボックススパナ 【19 mm×13 mm】	1 個
②チェンケース	1 個
③ガイドバー 【350 mm (14 インチ)】	1 個
④ソーチェン 【91VG-52E (オレゴン製)】	1 個
⑤スパイク	1 個 (CS33EDTP(S)のみ)
⑥丸やすり	1 個

仕 様

項 目	仕 様	
モ デ ル	CS 33 EDTP	CS 33 EDTP (S)
エ ン ジ ン 型 式	空冷 2 サイクルガソリンエンジン	
シリンダー数－内径×行径	1－37 × 30 mm	
総 排 気 量	32.2 mL	
瞬 時 無 負 荷 回 転 数	11,500 min ⁻¹ ～13,000 min ⁻¹	
常 用 回 転 数	8,000 ～ 10,000 min ⁻¹ (鋸断時回転数)	
アイドリング回転数	2,800 ～ 3,200 min ⁻¹	
回 転 方 向	右 (サイドケース側より見て)	
使 用 燃 料	混合燃料 無鉛ガソリン：2 サイクル専用オイル (25：1)	
燃 料 タ ン ク 容 量	290 mL (連続 20 ～ 30 分)	
気 化 器	ダイヤフラム型 (ウォルブロー製)	
点 火 プ ラ グ	NGK BPMR7A	
始 動 方 式	リコイルスターター式	
エアクリーナー方式	乾式	
停 止 方 法	アース式	
マ フ ラ ー 方 式	消音型	
動 力 伝 達 方 式	自動遠心クラッチ	
ガ イ ド バ ー 長 さ	350 mm (14 インチ)	
使 用 ソ ー チ ェ ン	91 VG - 52 E (オレゴン製)	
ソ ー チ ェ ン	ピッチ：9.53 mm (3/8 インチ)、ゲージ：1.27 mm (0.05 インチ)	
ス プ ロ ケ ッ ト	星形 6 枚歯	
チェンオイル給油方式	自動給油	
チェンオイルタンク容量	180 mL	
チェンオイル吐出量	8 mL/分 (9,000 min ⁻¹)	
使 用 チ ェ ン オ イ ル	専用チェンオイル	
ハ ン ド ル	防振装置付き	
防 振 機 構	スプリング防振機構	
質 量	3.4 kg (ガイドバー、ソーチェン除く)	
寸法 (全長×全幅×全高)	277 × 255 × 220 mm	
S ス タ ー ト	無し	有り

ご使用前の準備

●作業場所の整備

作業場所および周辺の環境をよく観察し、けがや事故、故障の原因になると予想できる物が作業場所にないか確認し、ある場合には、あらかじめ取除いてください。

特に、作業時足場となる部分については、不安定であったり、つまずいて転んだりする物がないように整備してください。

立ち木の伐採作業を行うときは、倒れる方向、転がる方向にも細心の注意を払い、自分自身の避難場所・経路もあらかじめ決めて整備しておいてください。



○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●燃料とチェンオイルの準備

⚠ 危険

- 燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけないでください。
火災またはやけどの原因になります。
- 給油中に燃料をこぼしたときは良くふき取ってください。
- 燃料は金属製の燃料缶に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。
樹脂製タンクに入れて保管または運搬しますと、静電気が発生し発火することがあります。

注

- 燃料は、必要以上に混合しないで、作業に必要な量をその都度準備してください。
1ヶ月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因になります。
- 燃料を樹脂製タンク内に保管しないでください。
樹脂の成分が燃料の中に溶けだし、気化器が故障する原因になります。特にペットボトルなどは使用しないでください。
- ガソリンだけで絶対に運転しないでください。
エンジンが故障する原因になります。

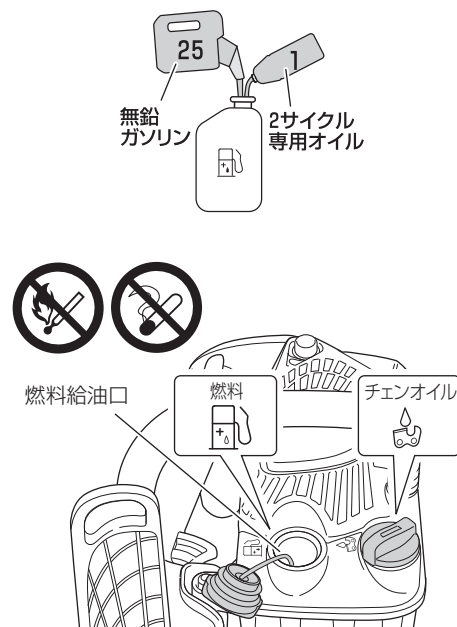
燃料は混合燃料 25 : 1
(無鉛ガソリン : 2 サイクル専用オイル) を
使用してください。

別容器でよく混ぜてから燃料タンクに入
れてください。

こぼれないように、燃料タンクの口元一杯
まで入れないで 8 分目程度にしてください。

注 燃料給油口とチェンオイル給油口を
まちがわないように注意してくださ
い。

給油口付近に図のようなイラストが
あることを確認してから正しく給油
してください。

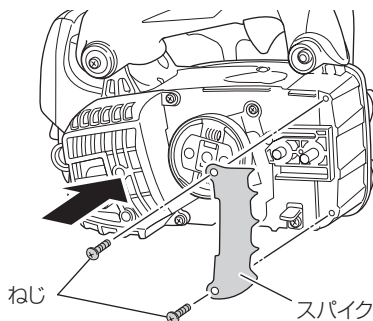


注 • チェンオイルの補給は、燃料を補給
するたびに行ってください。

• 燃料タンクキャップ、オイルタンク
キャップは確実に取付けてください。
給油後に、キャップから燃料・オイ
ルが漏れていないことを確認してく
ださい。

●スパイクの取付け (CS33EDTP(S) のみ)

スパイクを使用する場合は、P 13 の「ソ
ーチェンの交換」を参照し、ソーチェン・
ガイドバーを取りはずしてから、付属の
ねじ (2 本) で取付けてください。



●ソーチェンの交換

⚠ 警告

事故防止のため、必ずエンジンを止めておいてください。またソーチェンを取扱うときは、必ず手袋を着用してください。

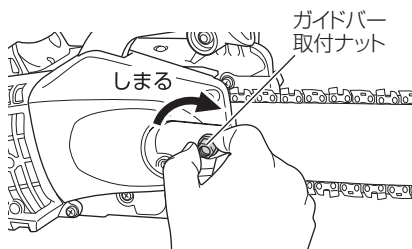
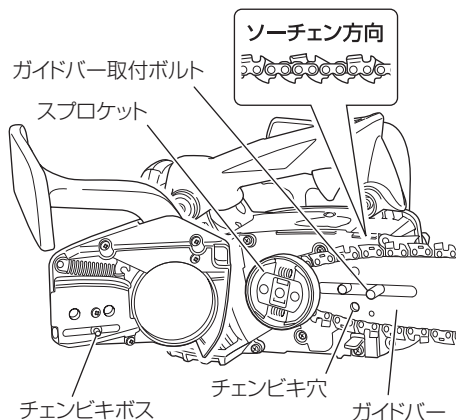
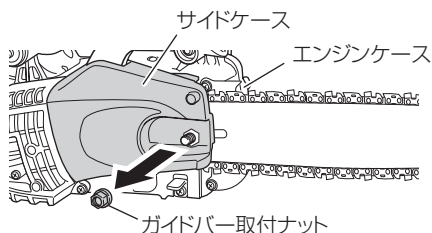
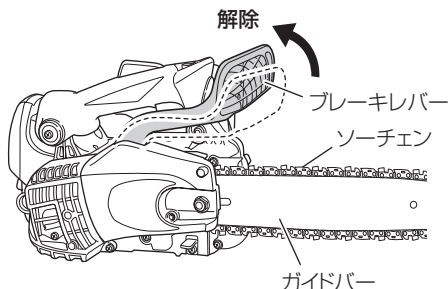
ソーチェンを新品と交換する際は、以下の手順で行ってください。

取りはずし

- 1 サイドケースをはずす前にチェンブレイクが解除されているのを確認してください。
(P18「チェンブレイクについて」参照)
- 2 付属の両口ボックススパナでガイドバー取付ナットをはずし、サイドケースを本体からはずします。
- 3 ガイドバーとソーチェンをゆっくりと取りはずします。

取付け

- 1 ガイドバーをガイドバー取付ボルトにセットします。
- 2 ソーチェンの向きに注意して、ソーチェンをスプロケットに掛け、ガイドバーの溝にソーチェンをセットします。
- 3 チェンビキボスとチェンビキ穴を合わせてサイドケースを取付けます。
- 4 ガイドバー取付ナットを手で締付けておき、次ページの『ソーチェンの張り具合調整』を行います。



●ソーチェンの張り具合調整

⚠ 警告

- ・事故防止のため、必ずエンジンを止めておいてください。またソーチェンを取扱うときは、必ず手袋を着用してください。
- ・ソーチェンが適切に張られていることを確かめてください。
ゆる過ぎますとソーチェンがはすれることがあります、けがの原因になります。

ソーチェンの張りを調整する際は、ガイドバー取付ナットがゆるんだ状態で行います。

付属の両口ボックススパナで、ガイドバー取付ナットをゆるめてください。

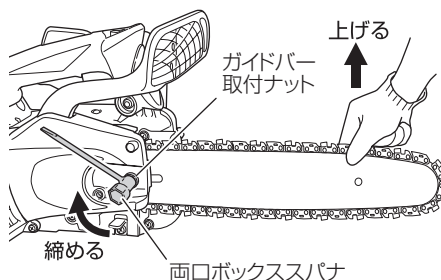
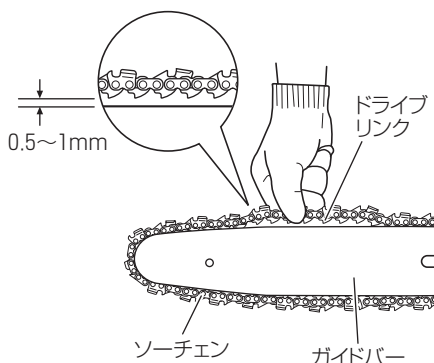
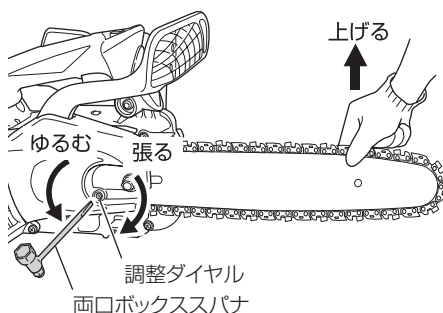
1 ガイドバー先端を持ち上げて、サイドケースの調整ダイヤルをマイナスドライバーで左右に回し、ソーチェンの張りを調整します。

2 ソーチェンの張りは、ガイドバーの中央付近で軽く持ち上げたとき、ソーチェンのドライプリングの先端とガイドバーのスキマが0.5～1mm程度となるように調整します。

3 調整が終わりましたら、ガイドバー先端を持ち上げながらガイドバー取付ナットを付属の両口ボックススパナでしっかりと締めてください。

4 手袋をした状態で半周程度ソーチェンを回し、再度チェンの張りが適正か確認してください。

注 ソーチェンが新しい間は、特に伸びやすいので、ときどき張り具合を点検し、調整してください。
なおガイドバー取付ナットの締付けも点検してください。



使い方

注 ソーチェンが回らないときは、チェンブレイキが作動していないか確認してください。
(P18「チェンブレイキについて」参照)

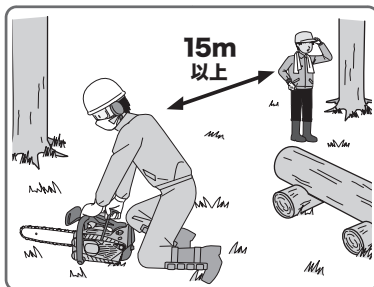
エンジンの始動/停止

⚠ 警告

エンジンを始動する場合は次のことに注意してください。

- 機体を平らな場所においてください。
- 15 m以内に人や動物を近づけないでください。
- 始動と同時にソーチェンが回ることがあるので注意してください。
- ガイドバーが地面、または障害物などに接触していない事を確認してから始動してください。
- 周囲にかれ草、紙くず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。
- 燃料を補給した場所から3 m以上離れた場所で行ってください。

不用意な始動は、けがや火災の原因になります。



● 始動方法

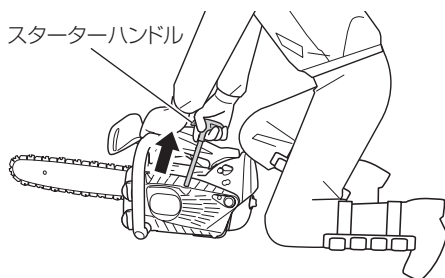
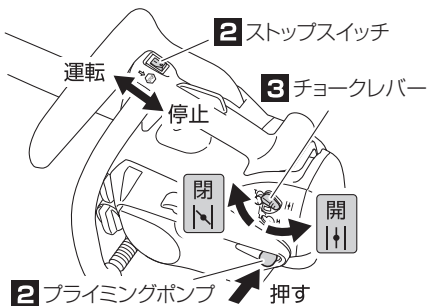
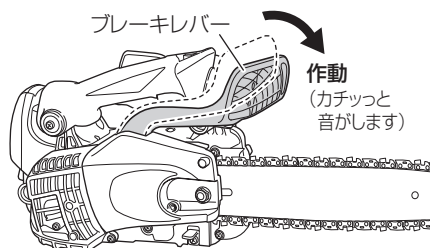
1 ブレーキレバーを前方に倒してチェーンブレーキを作動させてください。

2 ストップスイッチを「運転」の位置にしてください。
気化器内のバルブに燃料が流れるように、プライミングポンプを10回ほど押してください。

3 チョークレバーを閉（始動）の位置にしてください。これでスロットルレバーが自動的に「半開」状態にロックされます。

4 安定の良い場所にチェーンソーを置き、左手でフロントハンドルを握り、右ひざで機体の後部を押さえて固定します。

5 右手でスターターハンドルを軽く引き、抵抗を感じたら力強く引いてください。引いた後ハンドルを手放さないでロープをゆっくり戻してください。



- 6** 初爆（ポン、ポンという爆発音）がするまで、数回引いてください。初爆したら、チョークレバーを開（運転）の位置に戻してください。

注 チョークレバーを閉（始動）の位置のままスターターハンドルを引き続けると燃料を吸いこみすぎて始動しにくくなります。

- 7** 再度スターターハンドルを引いてエンジンを始動してください。

- 8** 始動したら、ロックレバーを押しながら、スロットルレバーを軽く引き「半開」を解除します。

- 9** 使用前にスロットルレバーを放して低速運転（アイドリング運転）で2～3分間暖機運転をしてください。

注 チェンブレイクの解除と同時にソーチェンが回り始めるようでしたらアイドリングが高すぎますので、調整してください。
(P 24「気化器」参照)

- 10** 暖機運転が済みましたら、ブレイキレバーを手前に引いてチェンブレイクを解除し、スロットルレバーを徐々に引いてください。ソーチェンが回りはじめます。
(P 18「チェンブレイクについて」参照)

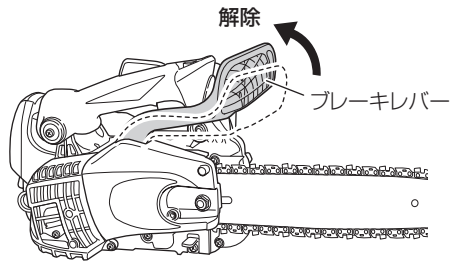
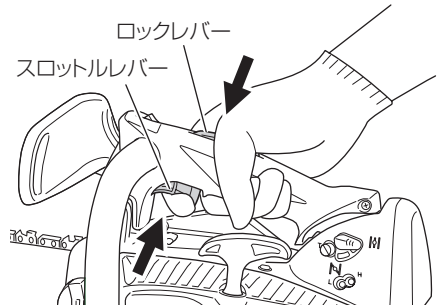
- 11** チェンオイルが正常に吐出されているか確認してください。ソーチェンが回ったらガイドバー先端を切り株などに向け、スロットルレバーを引いて10秒程度高速運転してみます。チェンオイルが切り株に飛散していれば正常に吐出されています。

エンジンが暖まっているときは…

エンジンが暖まっている場合は、チョークレバーの操作をしないで、スターターハンドルを引いて始動します。エンジンが始動しないときは**1**からの手順で始動操作を行ってください。

警告

スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので注意してください。



注 むやみな無負荷高速運転（空ぶかし）はエンジンの寿命を縮めますのでしないでください。

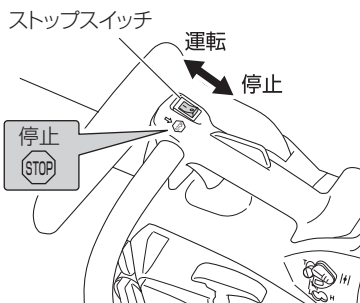
●停止方法

⚠ 警告

エンジンを停止してもマフラーなどが熱くなっていますから、枯草などの燃えやすい所へ置かないようにしてください。

1 スロットルレバーを放して低速運転（アイドリング運転）にします。

2 ストップスイッチを「停止（STOP）」の位置にするとエンジンが停止します。



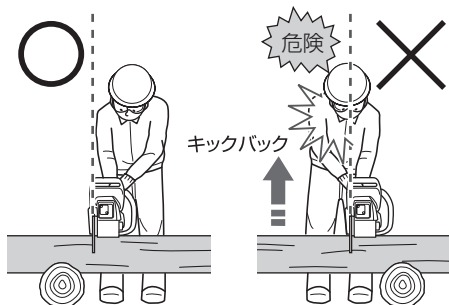
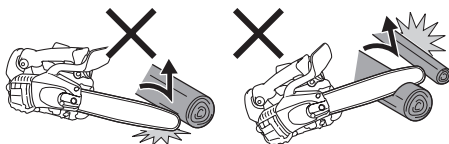
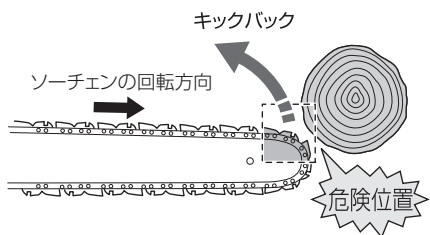
- 注**
- ソーチェンを付けた状態でチェーンソーを移動したり、保管したりするときは、チェーンケースをかぶせてください。
 - 万一、エンジンが停止しないときはチョークレバーを閉の位置にしてください。

キックバックについて

ガイドバー先端部の上半分が木材に触れると、ソーチェンの回転でガイドバー先端部が木材を駆け上がる力が働き、作業者の上半身に向かって跳ね返すキックバックが発生します。

ガイドバーの先端が切落とす枝の後ろにある丸太や小灌木にぶつかってキックバックを起こすことがあります。裏側にそのような物がないかよく確認してから作業をしてください。

万一キックバックが発生しても、危険性を最小限にするため、左手でフロントハンドル、右手でリアハンドルを持って作業してください。身体の芯（頭部）に跳ね返ることが避けやすくなります。



チェンブレーキについて

⚠ 警告

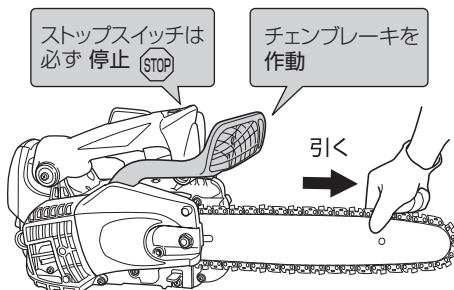
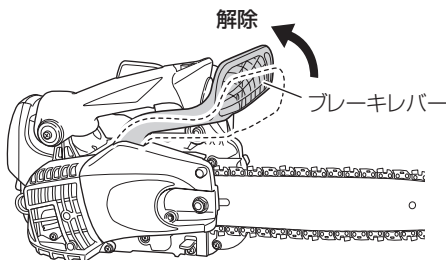
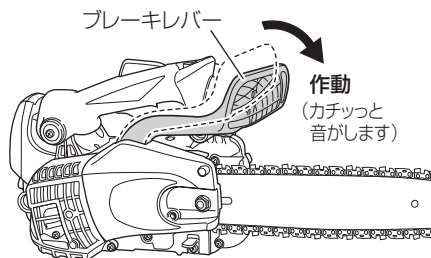
- チェンブレーキは緊急時の停止装置ですが万全ではありません。常にキックバックが発生しないように注意しながら作業してください。
- チェンブレーキは緊急時に使用する物です。むやみに使用しないでください。
- チェンブレーキが作動しているときは、エンジンの回転を上げないでください。
- チェンブレーキはこの屑などが詰まって動きが悪くならないように、こまめに手入れしてください。
- チェンブレーキは、安全にご使用していただくための重要な装置です。常に点検をしてください。

ブレーキの作動が不確実なときは、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

チェンブレーキはキックバックなどが発生したとき、緊急にソーチェンを停止し、危険を少なくするための装置です。
(P 17「キックバックについて」参照)

ブレーキレバーを前方に押すとチェンブレーキが作動してエンジンを停止しなくともソーチェンが止まります。
ブレーキレバーを手前に引けば解除されます。

チェンブレーキの作動確認をするときは、必ずストップスイッチを切って（停止状態）からブレーキレバーを作動状態にしてソーチェンを手で引っ張ってみます。
ソーチェンが動かなければチェンブレーキが作動しています。



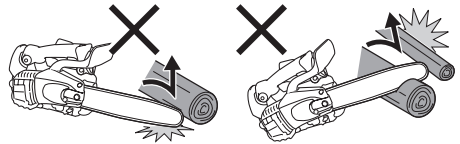
注 必ず厚手の手袋を着用してください。
ソーチェンは非常に鋭い刃になっているので、無理に引くと指をけがします。

使い方

作業する

⚠ 警告

- チェンソーを使用するときは、必ず両手でしっかり持って使用してください。片手では絶対に使用しないでください。
- 使用中は、ソーチェン、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
- 木材の下側から切込みを入れる場合、ソーチェンを木材に強く当てないでください。機体が押し戻され、けがの原因になります。
- チェンソーの回転が大幅に低下するような無理な使い方はしないでください。
- ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
機体が跳ね返り（キックバック）、けがの原因になります。

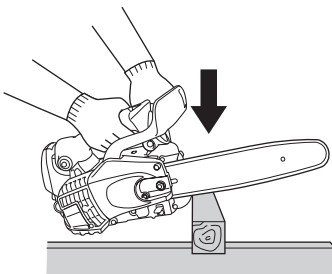


● 切り方の基本

回り止めなどを用いて、なるべく木材が動かないように固定してください。ハンドルを両手でしっかり握り、スロットルレバーを引いて高速運転し、ガイドバーの先端からチェンオイルが吐出しているか確認してください。ガイドバーの付け根付近を木材に当てて、そのまま真下へ本機を押し付けて切断します。切断が終了したら、スロットルレバーを戻しエンジンを停止させてください。

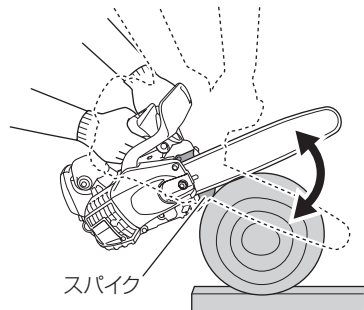
細い木材の切断

ガイドバーのつけ根付近を木材に軽く押しつけて切断します。



太い木材の切断

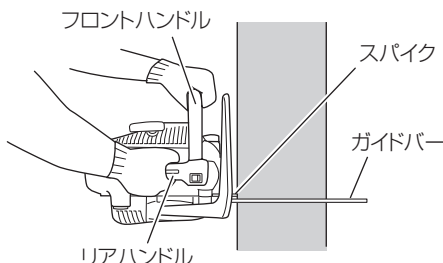
本体の前部についているスパイクを切断する木材に当て、このスパイクを支点として、テコ運動をしながら切断します。
(CS33EDTP(S)のみ)



木材を水平に切断

ガイドバーが下側になるよう機体を右側に倒した状態で、フロントハンドルの上側を左手で持ちます。

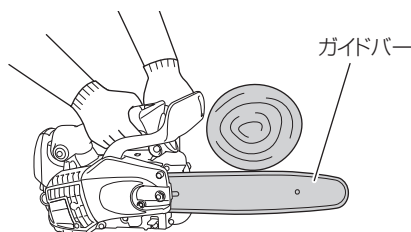
スパイク付仕様 (CS33EDTP(S)) の場合は、ガイドバーを水平にして機体の前部についているスパイクを木材に当て、このスパイクを支点としてリアハンドルを右に回すようにして切込みます。



木材の下側に切込みを入れる

ガイドバーの上側を木材に軽く当てます。ガイドバー先端部での切断はしないでください。キックバックによるけがの原因になります。

(P 17「キックバックについて」参照)



注 チェンオイルの補給は、燃料を補給するたびに行ってください。

●立ち木の伐採作業

⚠ 警告

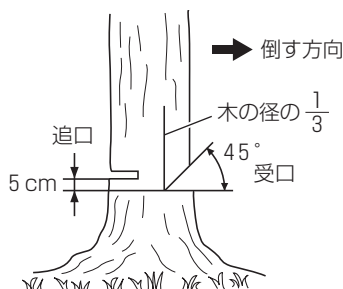
木が倒れる方向をよく確認してから、避難場所へ避難してください。

⚠ 注意

- 切断の際に、ガイドバーがはさまれないように注意してください。
- 傾斜地で作業する場合は、木の倒れる方向に注意してください。

立ち木の伐採

- ① 木の形状や周囲の状況を考慮し、木を倒す方向を決めます。
- ② 木のまわりの障害物を取除くと同時に安全な退避場所を決めておきます。
- ③ はじめに倒そうとする側に受口を切込みます。受口は木の直径 $1/3$ くらいが適当です。
- ④ 受口の反対側で受口の下面より 5 cm 程度高い位置より追口を切込みます。
- ⑤ 木が倒れはじめたら、スイッチを切り、あらかじめ決めておいた退避場所へ避難します。



●枝落としと玉切り

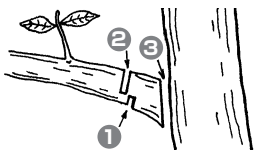
⚠ 警告

傾斜地で作業する場合は、必ず、木材の上方で作業してください。

立ち木の枝落とし

太い枝は、まずつけ根から少し離れたところを切落としします。

- ① 下側から3分の1くらい切込み、
 - ② 上側から切落としします。
- 必要に応じて最後に、残りの部分を
- ③ つけ根から切落とししてください。

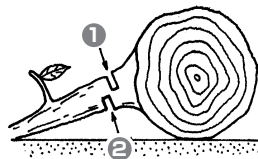


⚠ 注意

切断の際に、ガイドバーがはさまれないように注意してください。

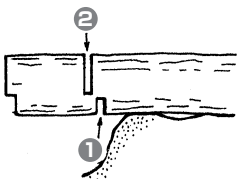
たおれた木の枝落とし

地面に当たっていない枝から切落とし、その後地面に当たっている枝を切ります。地面に接触している太い枝は、①上側から半分くらい切込み、②下側から切込み、枝を落とします。



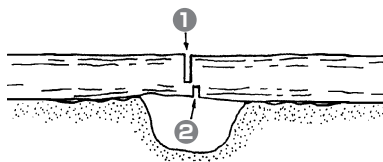
先端部分の切断

- ① 下側から3分の1くらい切込み、
- ② 上側から切落とししてください。



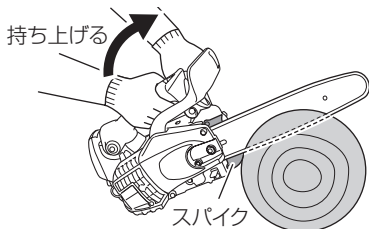
くぼみを利用した切断

- ① 上側から3分の2くらい切込み、
- ② 下側から切通してください。



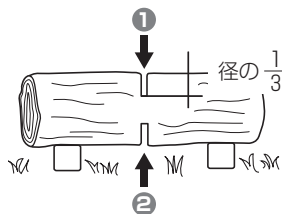
横たわっている木材の切断

木材の安定に注意してください。スパイクを木材に当て、このスパイクを支点としてハンドルを持ち上げるようにして切ると楽に作業できます。(CS33EDTP(S)のみ)



木材が両端で支えられている場合

- ① 上側から3分の1くらい切込み、
 - ② 下側から切通してください。
- 上側からだけで切断しようとする、切り口にガイドバーがはさまれることがあります。



保守・点検・整備

使用前の点検・整備について

製造時の、振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず機体各部の点検・整備を行い異常がないことを確かめてください。

- ①防振ゴムのはがれ、劣化、破損、および固定部のゆるみ、破損
- ②防振スプリングの破損および固定部のゆるみ、破損
- ③フロントハンドル、リアハンドルの変形、破損
- ④フロントハンドル、リアハンドル取付部のゆるみ、破損
- ⑤各部のボルト、ナットなどのゆるみ、破損

毎日の点検

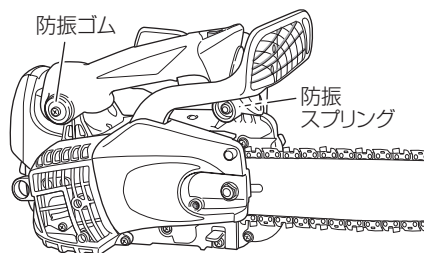
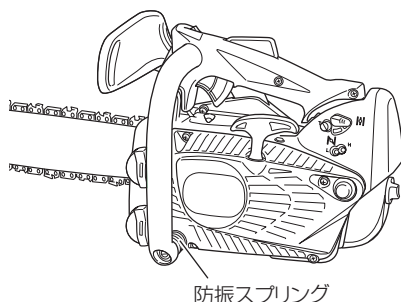
使用する前に各部のボルト、ナットなどのゆるみがないか、ガイドバーの先端、チェンブレーキのブレーキバンドなどに破損箇所はないか点検してください。

毎月の点検

- 点火プラグを清掃する。
- マフラーの排気口を清掃する。
- エアクリーナーを清掃する。
- チェンブレーキやリコイルスターターに付着した木屑やごみなどを除去する。

⚠ 注意

- 保守・点検・整備の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。また、点火プラグキャップをはずしてください。
- 保守・点検・整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- 不具合箇所が発見されましたら、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



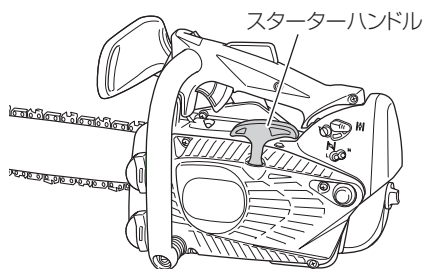
使い方

その他

●リコイルスターター

⚠ 警告

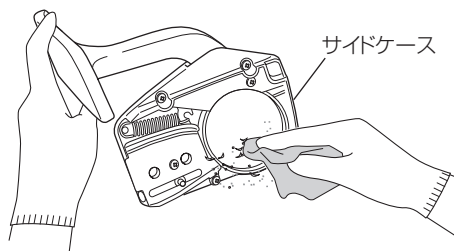
危険ですので、リコイルスターターを分解しないでください。
スターターハンドルが軽く引けない場合や、スターターハンドルを引いてもエンジンが始動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



●サイドケースの掃除

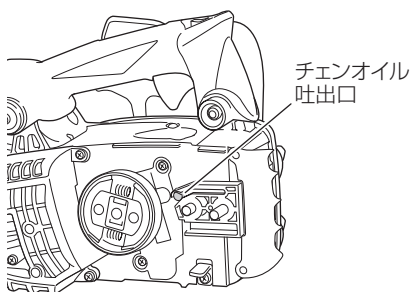
中にたまった木屑を除去して掃除してください。

注 チェンブレイキ付サイドケースの脱着は、ブレイキレバーを手前に引いてブレイキを解除した状態で行います。
(P18「チェンブレイキについて」参照)



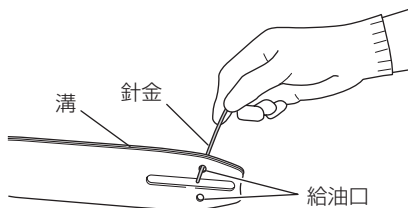
●チェンオイル吐出口の掃除

チェンオイル吐出口は、サイドケース、ガイドバーを取りはずし、時々掃除してください。



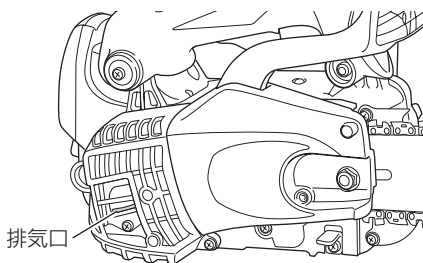
●ガイドバーの掃除

使用する前に、溝と給油口を時々針金などで掃除してください。



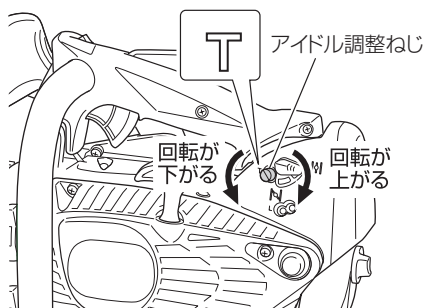
●マフラー

長時間運転しますと、マフラーの排気口の内部にカーボンが付着し、出力低下の原因になります。時々、清掃してください。



●気化器

- 気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、アイドリング回転数の調整以外は行わないでください。
- アイドリング回転数の調整はアイドル調整ねじで行います。
 - 右に回すと回転が上がります。
 - 左に回すと回転下がります。調整範囲はソーチンの回転が止まり、エンジンが停止しない範囲に調整します。

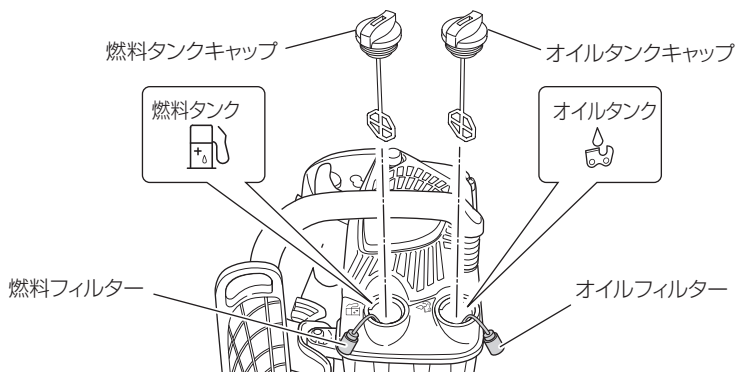


●燃料フィルター

- 燃料フィルターがつまると燃料が供給されずエンジンの回転不調の原因となりますので、時々点検してください。
- 汚れているときは、針金などで燃料給油口から引出してガソリンで良く洗ってください。(汚れのひどいときは交換してください)

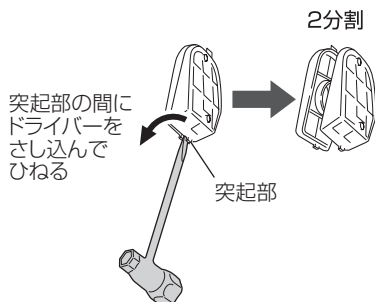
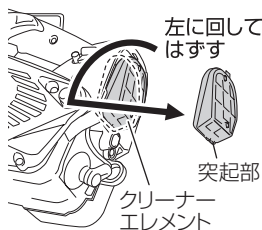
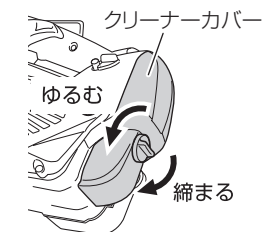
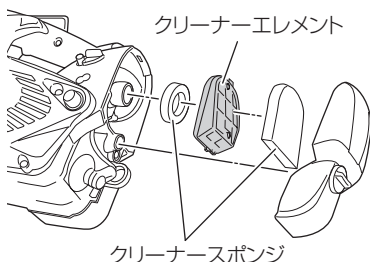
●オイルフィルター

- オイルフィルターがつまるとチェンオイルが供給できずガイドバーとソーチェンの焼き付きの原因となりますので、時々点検してください。
- 汚れているときは、針金などでチェンオイル給油口から引出してガソリンで良く洗ってください。(汚れのひどいときは交換してください)



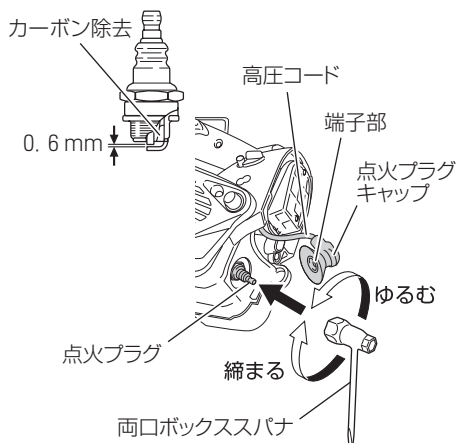
●エアクリーナーの清掃

- クリーナーカバーをはずし、クリーナーエレメント、クリーナー spons ジを取出して、ごみを払いガソリンなどで良く洗い、乾燥させてから使用してください。
- クリーナーエレメントの内部も清掃してください。
突起部にドライバーをさし込みひねると、2分割できます。



●点火プラグ

- 点火プラグは指定のものを使用してください。(P 10「仕様」参照)
- 最良の運転状態では点火プラグの電極が茶褐色に乾燥しています。
電極のすき間は0.6 mmです。
- カーボンが付着している場合はワイヤブラシなどで清掃し、ガソリンで洗い、乾かしてから使用してください。



ソーチェンの目立て

ソーチェンの切れ味が悪くなると、エンジンや機体の各部に無理をかけ、能率も悪くなります。

本機の能力を発揮するためには、ソーチェンをまめに手入れし、切れ味の良い状態にしておく必要があります。

⚠ 警告

事故防止のため、必ずエンジンを止めておいてください。またソーチェンを取扱うときは、必ず手袋を着用してください。

注 目立ておよびデブスゲージの調整は、ソーチェンを機体に取り付けたまま、ガイドバーの中央部で行ってください。

●目立て

ソーチェンの目立ては丸ヤスリと平ヤスリを使用します。

丸ヤスリはカッター部の研削に、平ヤスリはデブスゲージの研削に使用します。

注 標準付属品の丸ヤスリはヤスリ部とグリップ部に分割されていますので、グリップ部を挿入して使用してください。

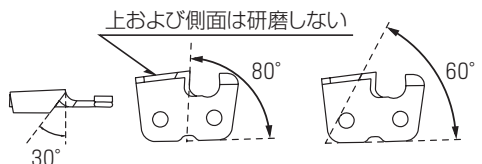
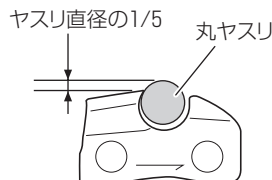
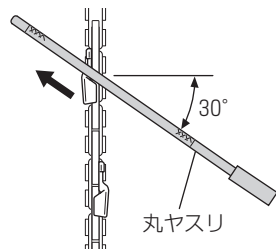
丸ヤスリは直径 4 mm を使用します。
カッター部の研削は丸ヤスリの直径の $1/5$ を上部に出して行います。

上刃目立て角は 30° です。丸ヤスリのグリップ側を前方に軽く押し出すように研削します。

手前に戻すときは、丸ヤスリがソーチェンに触れないようにしてください。

左右のカッターが均等になるようにヤスリをかけてください。

すべてのソーチェンの角度がそろっていないと、曲って切れることがありますので注意してください。



●デブスゲージの調整

デブスゲージはカッターが木にくい込む深さを調整する役割をしますので、デブスゲージを全部一定にそろえることが大切です。

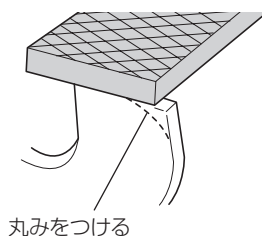
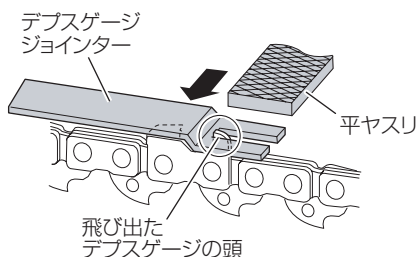
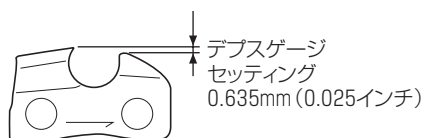
刃の目立て 2 ～ 3 回に 1 回は、必ずデブスゲージをチェックしてください。

デブスゲージジョインターをソーチェンの上にのせ、溝の部分からデブスゲージをのぞかせ、デブスゲージジョインターから出ている部分を平ヤスリですり落としてください。(デブスゲージジョインター、平ヤスリは別売品です)

デブスゲージをすり落としたら、必ずデブスゲージの前側をもとのように丸みをつけてください。

ソーチェンの目立てが終わったら、チェーンオイルの中に浸してヤスリ粉を洗い落としてください。

ヤスリ粉がつまったまま使用すると、ソーチェンやガイドバーが早く磨耗します。



保管方法

- 各部を十分に清掃し金属部には発錆防止のため 2 サイクル専用オイルを薄く塗ってください。
- 長期間 (1 ヶ月以上) 保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくしておきます。
- 点火プラグをはずし、プラグの穴から少量の 2 サイクル専用オイルをシリンダーに流し込み、スターターハンドルを数回引きオイルが行き渡るようにしてください。点火プラグをもと通りに取付けてください。
- スターターハンドルを引っ張って圧縮のあるところ (重くなったところ) で止めてください。
- 損傷箇所がある場合は必ず修理してから格納してください。
- ほこり、湿気のない乾燥した、また温度が 50℃ 以上にならない場所に保管してください。
- 子供の手の届かない安全な場所に格納してください。
- 燃料は屋内の火気の心配のない、冷たい乾いたところに、安全な容器に置いて保管してください。古くなった燃料は故障の原因となりますので使用しないでください。
- チェーンソーを移動、保管する場合は安全のため、必ず付属のチェーンケースを取付けてください。

故障診断



警告

修理に使用する部品は必ず指定の純正部品を使ってください。



「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状 況		原 因	対 策
エンジンがかからない	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	正しい混合比（25：1）の燃料を入れる
		燃料タンクに古い燃料が残っている（異臭）	新しい燃料に交換する
		燃料を吸い込みすぎて、点火プラグが濡れている	1. 点火プラグをはずし、乾かす 2. スターターハンドルを5～6回引いて余った燃料を出す 3. 点火プラグを装着する「点火プラグ」参照 4. チョークレバーを開（運転）の位置にして、スターターハンドルを引く
		燃料パイプが折れ曲がっているまたは、はずれている	燃料が流れやすいようにする
		気化器の不調	販売店に相談する
	【電気関係】	ストップスイッチが停止(STOP)になっている	運転位置にする
		点火プラグに火花が飛ばない	「点火プラグ」参照
		ストップスイッチのリード線がショートしている	販売店に相談する
		点火プラグが汚損している	交換または掃除する
		点火プラグのギャップが広い	0.6 mmに修理する
		高圧コードと点火プラグの接続が悪い	接続を直す
		電気系の異常	販売店に相談する
エンジンはスタートするがすぐ停止する 停止しそうになる	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	正しい混合比（25：1）の燃料をいれる
		燃料タンクに古い燃料が残っている（異臭）	新しい燃料に交換する
		2サイクル専用オイルが混合されていない	販売店に相談する
		チョークレバーが閉になっている	チョークレバーを開（運転）にする
		燃料系統に空気が混入する	燃料パイプや継手の接続を直す
		気化器の不調	「気化器」参照、または販売店に相談する

状 況		原 因	対 策
エンジン は スタートするが すぐ停止する 停止しそうに なる	【電気系統】	点火ミス ●点火プラグの不良	新品と交換する
		●電気系の異常	販売店に相談する
	【その他】	エンジンのオーバーヒート ●点火プラグの番手違い	指定品に交換する「仕様」参照
		●シリンダーまわりのゴミづまり	掃除する
		●冷却風吸いこみ口のごみづまり	掃除する
		エアクリーナーの汚れ	掃除する
		カーボンづまり（マフラー排気口）	掃除する
チェンオイル給油装置 の働きが悪い （ガイドバーとソーチェンとの間で焼き付きを 起こす）		オイルタンク内にチェンオイルが少ない	チェンオイルを入れる
		チェンオイル吐出口がつまっている	掃除する
		オイルフィルターがつまったり、 はずれたりしている	・ 掃除する ・ 汚れがひどいときは交換する ・ はずれているときはしっかり接続する
		チェンオイルパイプが折れ曲がったり、 はずれたりしている	販売店に相談する
エンジン は かかっているが ソーチェンが 動かない 動きが悪い		チェンブレーキが作動している	ブレーキレバーを手前に引いて 解除する
		ソーチェンがスプロケットからはずれている	ソーチェンの張り具合を確認して、 異常にゆるい場合、サイドケースをは ずして、スプロケットにソーチェンが 正しくセットされているか確認する
		サイドケース内に… →切粉がつまっている →異物が引っ掛かっている	サイドケースをはずして、 サイドケース内を掃除する
		ガイドバーの溝に… →切粉がつまっている →油が回らない	・ ガイドバーの溝やオイル穴を掃除する ・ オイルタンクにオイルが入っているか 確認して、なくなっていたら補充する
切れ味が悪い		ソーチェンが… →摩耗している →さびている	・ ソーチェンを目立てする ・ 摩耗や、さびがひどいときは 新しいソーチェンと交換する
		ソーチェンの向きが逆になっている	正しい向きに付け直す
		ソーチェンの張りがゆるい	ソーチェンの張りを確認して、 ゆるい場合は張りを強める

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご購入の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(N0.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(N0.)
販売店 (TEL)		

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

北海道支店 TEL (011) 896-1740 (代) 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
東北支店 TEL (022) 288-8676 (代) 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
関東支店 TEL (03) 5783-0608 (代) 〒108-6020 港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
中部支店 TEL (052) 533-0231 (代) 〒451-0051 名古屋市西区則武新町1丁目32番16号
北陸支店 TEL (076) 263-4311 (代) 〒920-0058 金沢市示野中町1丁目163番
関西支店 TEL (0798) 37-2665 (代) 〒663-8243 西宮市津門大箇町10番20号
中国支店 TEL (082) 504-8282 (代) 〒730-0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
四国支店 TEL (087) 863-6761 (代) 〒760-0078 高松市今里町1丁目28番14号
九州支店 TEL (092) 621-5772 (代) 〒813-0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」



0120-208822 (フリーダイヤル・無料)

※携帯電話からはご利用になれません。

(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)

国内営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)